



トゲナナフシ

《私が子どもだった頃》 代表 山田 陽治

自分が生まれて住んでいたのは六浦小学校の裏でした…といっても1歳の頃までで、六浦小学校で起こった火事のこととも記憶にはなく聞かされた話です。

記憶にあるのは、その後引っ越した大道で、家は侍従川のほとり、山王橋のすぐ近くでの生活でした。近所の廣瀬さん(侍従会スタッフ)のお家によく遊びに行っていて、廣瀬さんのお父様、お母様には可愛がって戴きました。

当時(昭和50年頃)の侍従川は、台所やお風呂の水がそのまま流れこんでいてすごく汚い川でした(当時、トイレは汲み取り式だったので、糞尿は流れ込みませんでした)。侍従川に石を投げると底にたまったヘドロが黒く巻き上がるのが面白くて、よく石を投げました。ラーメンの麺が川を流れていたのも覚えています。

そんな侍従川でも生きものは見られて、ボラやダボハゼ(チチブ)がいました。小学生の頃、ギャング針による引っ掛け釣りが流行っていて、クラスメートのYが夕見橋でボラを釣り上げ、刺身で食べたという話を聞き、「Yは死ぬんじゃないか」と思ったこともあります。とにかく、それだけ汚い川でした。

しかし、たまに逃がされた金魚や亀がいたら、生きもの大好きな山田少年は護岸の出っ張りを利用して川に降り、川に入ったりしました。

小学校2年生の頃、マンガ「釣りキチ三平」の影響で釣りを始めました。デビューは、平潟湾の弁天島でのハゼ釣りでした。それからは、友だちと自転車



トゲナナフシ (棘竹節虫)

学名 : *Neohirasea japonica*

本州、四国、九州に分布する大型のナナフシ。

体色は茶褐色で、名前の由来は体にトゲがある事から。ヤツデやバラ等を主な食草とする。

本種は殆どオスがおらず、メスだけで卵を産む。気温が下がってくると日当たりのよい場所に現れることから、初冬に目にする事が多い。

深沢大地

で、平潟湾や野島でハゼ釣りをしていました。最初の頃はハゼ（マハゼ）がよく釣れ、餌がなくても釣れることもありました。釣れたハゼは、自分で捌いて唐揚げにして、家族の食卓に出したり、近所に配ったりもしました。

普段は、しっかり腸を出して揚げるのですが、子ども心の残酷心から、生きたままハゼを油の中に入れて、腸ごと食べて気分が悪くなり寝込んだことがあります。当時は、公害問題がピークだったので、あの頃のハゼには有害な物質が体内にたまっていたのでしょうか…そんな公害問題を小学校5年生の山田少年は身を持って知ったのでした。（続く）

「環境絵日記」（主催：横浜市リサイクル事業協同組合）に、林叶恵ちゃん（小4）と林正朗くん（小2）が侍従川のことを書いて応募しました。



生き物発見記録

9/25（日）ホトケドジョウとミナミテナガエビを上流域で確認（学生部）

10/4（火）日本初記録のハムシの1種、Podontia sp.を発見（林叶恵さん採集、佐野・山田が確認）※現在、ハムシの専門家 南雅之氏に同定を依頼中。詳細が分かり次第改めてご紹介します。

10/10（月・祝）汐見橋付近でクロダイを複数確認（佐野確認）

10/23（日）ゲンジボタル幼虫を山王橋-二の橋間で確認（小島さん採集）
※中流での幼虫の確認は初記録



9月定例クリーンアップ

【活動報告1】

9月25日(日) 9:00~11:00 曇り

細川一雄

実施内容：朝比奈橋～大道橋～大道東橋（土嚢袋6袋分回収、スチールの棒網他）

参加者：長野政治、中山吉雄、西澤博厚、関場俊子、村田章夫、石塚正夫、中村健二、小坂信房、山田陽治、佐野真吾、柴田繭子、柴田真穂（中3）、柴田真菜（小5）、柴田幸成（年長）、水野公秀、水野裕子、水野秀昭、徳永宗介、徳永哲郎（小1）、深沢大地（高1）、高橋一太（中1）、金澤喜乃（小6）、佐藤弥粹（小6）、細川一雄（計24名）

今月は、台風が何個も日本列島を襲い、さらに秋雨前線が列島に横たわっていた為、各地で水害が発生してしまいました。その為、晴れた日がほとんど無く、野菜が日光不足で生育せず異常な高値となっていました。クリーンアップの週もずーっと雨が降っていて、予想では唯一当日が晴れるとの事でしたが期待に反し、朝から霧雨が降っていました。テレビの天気予報とインターネットの天気予報を確認し、確かに雨が降らないのを確認し準備を始めました。

今回も上流組と下流組に分かれて作業開始です。長雨のために水量が多少多いようで、前日迄降った雨の為、川の流れの左右の面が濡れていて長靴がツルツル滑ります。気をつけて作業を行いましたが、ブックオフの下でとうとう転んでしまい、お尻を打ちズボンも濡れてしまいました。それからは川の中を移動するようにして作業を続行です。セイタカアワダチソウの花の蕾が黄色くなって目だって来ましたので、見つけては引き抜くか根本の近くで切ります。毎回多少の草は刈っていますがやはり夏は草の成長が早く切った跡が分からないほどでした。

近年山から流れてくる土砂の量が多いか分かりませんが、川底の砂が以前に比べると大分増えたように感じられます。更に今まであまり砂が堆積していなかったような場所に砂が溜まっている場所を多く見かけます。ちとせ園に着くとミニ水族館（講師は高橋一太君でデビュー戦との事です）の準備が始まっていました。子ども達には恒例のお菓子を、大人たちにはモツ鍋を食べてもらい楽しいひと時を過ごしてもらい解散しました。



大道橋上流の清掃風景



ブックオフ下の清掃風景



山田さんの指導を受けながら一太君奮闘



回収した6袋分のゴミ

ハゼ釣り大会

10月2日(日) 9:00~15:00

【活動報告2】

浦信太郎

初めて投稿します。浦といいます。10月2日、毎年恒例の侍従会ハゼ釣り大会に、参加させていただきました。

今年は、天気が良く、暖かい日差しを浴びながらの釣り大会でした。ですが、潮が新月の大潮、ちょうど昼には、干潮をむかえ、川の水位が低いのではなにかと、心配してました。子ども達は、そんなことおかまいなしにさっそうと釣りを楽しんでました。潮の満ち干き、私の思い過ごしですね。

やはり参加者の皆さん慣れていらっしゃるのか、汐見橋上か、橋、下流にて釣り糸をたらしていました。下流からは、子ども達の「つれたー！」という声が、よく聞こえました。

昼からちとせ園に行き、ハゼ釣り大会に参加した子ども達、父兄の皆さんが釣り上げたハゼを、侍従会スタッフ、父兄の皆さんが見守るなか子ども達が、ハゼをさばき、天ぷらにして、美味しくいただきました。

そして私は、ちとせ園下流にて、再度ハゼ釣りを、楽しませていただきました。



ハゼ釣り大会の感想

かねごんさんへ

桃花が、さばいた時お魚を上手に揚げてくれてありがとう♪ 中根桃花(小1)

釣り竿の作り方の説明が上手でした。餌の虫を触れるようになったので、また釣りをしてみたいです。中根晴香(小4)

10月定例クリーンアップ

【活動報告3】

10月23日(日) 9:00~11:00 晴れ

細川一雄

実施内容：朝比奈橋～大道橋～大道東橋（土嚢袋8袋分回収、ペットボトル多数）

参加者：長野政治、長橋暉明、八木場紀元、西澤博厚、角田繁、中村健二、山田陽治、小坂信房、高橋周佑、佐野真吾、水野公秀、水野秀昭（小2）、石田だいき（小4）、西原心彩（小4）、西原大翔（小2）、牧嶋信一、牧嶋珠結（小4）、右田泰子、徳永宗介、徳永哲郎（小2）、今井康祥、今井幸子、今井翔太（小5）、今井はるか（小1）、柴田謙作、柴田真穂（中3）、柴田幸成（年中）、小島健作、小島みゆき、小島大洋（小2）、小川和美、小川翔太（小4）、飯田雅美、浦信太郎、浦知美、浦なつこ（小5）、蘇山利依子、蘇山花音（小2）、蘇山慶樹、蘇山幸志、金子英司（大2）、長崎光則（高1）、高橋一太（中1）、細川一雄（計44名）

気候が良くなったせいか、久しぶりに多くの方が参加してくれました。特に子ども達の参加が多くとても嬉しい限りです。また親子で参加された方が10組もありました。川の自然に親しんでいただけると嬉しいです。

逆に、大人グループはこの所負傷者が続出し、上流に向かうメンバーが5名と今までの半分近くに減ってしまいました。これ以上体調不良者が出ないことを祈るばかりです。皆さんあまり無理をしないようにしましょう。

初参加の方が多く見受けられましたので、定刻過ぎに、参加された皆さんにお礼と用具の貸出と注意事項を説明し活動を開始しました。11時過ぎに川から上がり侍従川ミニ水族館を山田代表たちが開催し、非常に好評でした。さらに、集めたゴミを県営住宅跡地に持っていくと、大道町内会の方々が草刈りを行なっていましたので、遅れ馳せながら草刈りの手伝いをしました。ミニ水族館が終わった後、子ども達にお菓子と飲み物を分けて一息つき解散しました。



地藏前橋下の清掃風景



里野橋上流の護岸のススキと清掃風景



回収した8袋分のゴミ



県営住宅跡地の草刈り
(大道町内会の方々)

11月3日（木・祝） 9：30～

11月3日(木・祝)に秋の森探検が行われました。集まったのは10人ほど。飯村さんをリーダーに大道中学校裏の山を目指しました。

森の中をムカゴやキノコなど秋の味覚を探して歩きました。飯村さんからこれは食べられるキノコ、こっちはダメと解説を受けながらみんなで沢山のキノコとムカゴを採取することができました。採集後は調理のため大道一丁目緑地を目指しました。

大道一丁目緑地につくと元気な子は川で遊んだりしつつ調理を開始しました。メニューは“ムカゴのバター焼き”“キノコのバター醤油炒め”だけの予定でしたが、後から合流した山田さんの提案で“キノコスパゲッティ”も作りました。やっぱり天然キノコの味は格別でした。みんなで楽しくおいしく頂きながらイベントはお開きになりました。



トピックス

9/14（水）大道小学校全校生徒によるクリーンアップが雨天のため中止（予備日9/15も中止）

10/15（土）海の公園で開催された、第42回金沢まつりいきいきフェスタにて侍従川水族館展示…今井康祥・翔太、金澤由香・喜乃、長橋が対応。



10/31（月）高舟台小学校5年生が侍従川源流観察…山田が対応

11/13（日）野島研修センターで開催された、第21回金沢水の日にて侍従川水族館展示…今井一家（康祥、幸子、翔太、はるか）、金子、深沢、高橋、佐野、山田が対応。

11/18（金）高舟台小学校5年生の侍従川発表グループが、侍従川に発表展示用の生きものの採集…細川、山田が対応

12/3（土）葉山めだかの会の研修会で侍従会の取り組みを発表…山田が対応

1 1月定例クリーンアップ

【活動報告5】

1 1月27日（日） 9：00～11：00 曇り

細川一雄

実施内容：朝比奈橋～大道橋～大道東橋（土嚢袋7袋分回収、中身の入った瓶ビール、物干し用ピンチ）

参加者：長野政治、中山吉雄、長橋輝明、八木場紀元、西澤博厚、角田繁、中村健二、徳丸東洋男、関場俊子、石塚正夫、村田章夫、小坂信房、石渡博、柴田繭子、柴田真穂（中3）、柴田真菜、柴田幸成（年長）、小川和美、小川翔太（小5）、金澤由香、金澤瑛士（中3）、金澤喜乃（小6）、金子英司（大2）、深沢大地（高1）、高橋一太（中1）、貞廣守保（小4）、細川一雄（計27名）

当日クリーンアップ終了後に、牡蠣焼きパーティを計画していましたが、天気予報を見てもヤキモキしながら天気予報を見ていました。しかし、当日朝の天気予報を見ると丁度午前9時から午後3時まで降水確率50%ながら、曇りの予報になりましたので、大急ぎでクリーンアップ実施の連絡を回し、牡蠣焼きの準備をして家を出ました。

雨模様の為、朝の出足はあまり良く有りませんでした。はるばる九州から徳丸さんが参加してくれました。また、体調が思わしくなかった長橋さんや中山さん、関場さんも参加され久しぶりに会って話が弾みました。しかし、子ども達の引率をする人数が少ない為、急遽細川が下流方面の作業について行きました。

上流域は横浜市が草を刈ってくれましたので、あまりゴミが出なかった様ですが、大道橋上流の陸地に大きなビニール袋に入った家庭ごみが捨てられていました。折角きれいになったのに残念で堪りません。下流域は相変わらず煙草の吸殻が多く捨てられていました。また、栓の開いていない瓶ビールを拾ったり、山王橋の下には足を怪我した？カルガモがうずくまっています。様子を見ようと近づくと慌てて逃げてしまいました。

ちとせ園に着くと既に牡蠣焼きの準備が出来ていましたので、大急ぎで子ども達のお菓子・飲み物の買出しと、大人から会費を集め、材料と飲み物の買出しに行きました。しばらくすると牡蠣の焼けるいい匂いが公園内に漂い、焼けた牡蠣を皆でほおぼり1時間30分ほど談笑して解散しました。



長島橋下の魚採りと清掃風景



山王橋下流の清掃風景



大道橋上流に捨てられていたゴミ



回収した7袋分のゴミ

ピカピカタンポポだより③

横浜市立大道小学校 鷺谷康子

大道小の学習活動に、いつもお世話になりありがとうございます。

3年生は、地域のことを調べるうちに春の侍従川清掃での生き物との出会いなどから、侍従川の生き物に興味をもって総合の学習で、知りたい、生き物にさわりたい、調べたいと子どもたちの考えがまとまりました。そこで、山田さんをはじめ、侍従川に親しむ会の方々のお力をお借りすることになりました。

第1回 山田さんに話を聞く(6月14日)

侍従川の河口の野島公園での遠足に向けて、侍従川の生き物について、野島公園のまわりの生き物などについてお話しいただきました。あさが濁った水をきれいにする様子を見る実験では、生き物の力にびっくりし、自然の力に驚きました。また上流から下流までの、いろいろな生き物の話を聞き、これから調べる侍従川には、多様な生き物がいることがわかりました。実際に見たい!探したい!という気持ちが高まりました。

第1回 侍従川観察会(7月1日)

チチブをはじめ10以上の生き物の観察ができました。細川さん、村田さん、関場さん、そして山田さんにご協力いただき3年生50名が、生き物をさわることができました。



第2回 侍従川観察会(9月5日)

生き物14以上に、大型のモクスカニにも出会いました。山田さん、細川さん、村田さんにお手伝いいただきました。毎回ですが、ミニ水族館でのお話も楽しかったです。



第2回 山田さんに質問をする(11月8日)

今までの観察をもとに、本などを使って調べた自分の決めた生き物について学習発表会で、発表することになり、調べてもわからないことについて、山田さんに来ていただいて、質問する機会をいただきました。実際に朝、チチブやボラを侍従川から採ってきてくださったのは、ありがたかったです。2時間たっぷり質問しました。



大道小学校ふれあい学習発表会(11月26日)

調べたことをもとに1枚図鑑を作り、調べた生き物になりきって、「私はチチブです。私は～」と説明しました。また粘土で侍従川の自分のなりきった生き物を作り、会場中央に侍従川を作りました。実際にさわって調べた生き物だったので、自信をもってできた発表でした。今までの、学習の積み重ねがあったからだと思います。ありがとうございます。

総合の学習は、このあと3月まで続きます。



琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～ ～ ヨナグニマルバネクワガタ ～



学名 : *Neolucanus insulicola donan* 体長 : ♂38～62 ミリ ♀38～51 ミリ

分布 : 与那国島

石垣島と西表島に生息するヤエヤママルバネクワガタの与那国島亜種で、国産のマルバネクワガタ類では最も標高が低い山地に生息し、成虫は10月から12月まで活動する。

幼虫はビロウやツルアダンなどの沿岸性植物の生い茂る林内に僅かに生えているイタジイの古木で生育する。

生息数が激減しているクワガタムシで、絶滅の危険が最も高いとされ、主に昆虫採集者や業者による乱獲、生息地の公園整備、自衛隊の基地施設建設による生息環境の消滅が原因とされる。2011年4月に環境省が定める「国内希少種」に指定され、許可なく採集、飼育、譲渡等が禁止されている。

監修 : 熊井 (沖縄在住)

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

9月は残暑と多雨で森の夏キノコが大発生。フランスからの友人を案内時にタマゴタケとセツプがとれて大満足となる。



セツプ



関谷奥頂上

10月、晴天や高温で秋キノコが遅れていたが、下旬の雨で出始めた。

11月3日のイベントでもおいしいクリフウセンタケが当たりでおいしく成功でした。



クリフウセンタケ

11月24日は原流の山々で大雪となる。山つづきの関谷奥頂上や大丸山では多い所15cmの積雪に達した。高度120mより高い場所で積雪が多くなっていた。この時期としては初の体験。



大丸山

佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～俺たちゴールデン世代～

代表の山田さん曰く、侍従会学生部には、世代によって「ゴールデン世代」と言われる伝説の世代があるそうです。ちなみに、私や琉球生き物紀行の筆者である熊井さんの世代は(だいたい1984年～1988年生まれの世代)、第三ゴールデン世代だそうです。自分がいた世代をゴールデン世代と呼んでもらえるのはありがたいことです！(笑) さらに私より8歳年下で、現在学生部副リーダーの金子くんたちの前後世代は第五ゴールデン世代と言うそうです。「じゃあ、ミツツー(長崎くん)たちは、第6ゴールデン世代かもな！！」「まじで？ やっぱり？ ☆俺たちゴールデン世代だあー！！」なんて話を現在の高校生たち(2000年前後生まれの世代)としたのは数年前のことでした。侍従会のすごいところは、常に新しい世代が入り、育っていることだと思います。

少し前、帰りの電車の中で、学生部副リーダーの金子くん(カネゴン)と二人で侍従会の世代について話をしました。

佐野「侍従会は、若い世代が常に入ってきてるじゃん！すごいことだと思うんだよね！

結構世代交代で悩んでる団体って多いみたいだよ。」

金子「確かにね！でもやっぱり世代によってカラーはあるよね！俺たちの世代はどうだった？」

佐野「やっぱり野生的で本能的だったよね！笑 生き物採るセンスを持ってたし！笑」

金子「俺は、そういうセンス無かったけどね！笑」

佐野「でも大人になってからも残ったじゃん！」

金子「まあね！金野もそっち系の大学行ったでしょ？」

佐野「そうだね！でも県外に出ちゃったからなかなかね！まあまた戻ってきたら来るこ

とを願ってるよ！」

金子「ちなみに俺たちの世代では、誰が最後まで侍従会に残ると思ってた？笑」

佐野「カネゴンに残ると思ってたよ！！キリ」

金子「ははは・・・笑 今のだいちゃん（深沢くん）たちの世代はまたカラーが違うよね！」

佐野「確かに！ カネゴンたちの世代は相当濃いのが集結してたけど、今の世代は違った意味で濃い子が集結してるよね！笑 それぞれキャラが確立されてて個人個人のインパクトがあるな！」

金子「だいちゃんとかミツツーの次の世代はどうか？」

佐野「イッタとかエイシとかコウスケとか現役中学生とその前後の世代がいるじゃん！」

金子「そうだね！ さらに下にはショウタとかもいるしね！」

佐野「でもさあ、今、人が集まるのは山田さんの集客力あってのところが大きいじゃん！俺もたまにはスカウトしてくるけど、山田さんと同じようにはできないし、山田さんに頼りきって甘えている部分もある。俺は生き物屋って立場で楽しく侍従会をやりたいし！これから何十年後までには、仲間たちの個性と能力と役割を生かして役割、少しずつ違うスタンスも育てないといけないと思うんだよね。カネゴンは何十年後も侍従川にいるでしょ？笑」

金子「え？笑 まあまだ先のことは分からないけど、そうしたい気持ちはあるよ。」

佐野「俺もまだ若いうちは、これからどっか遠くに行くことはあるかもしれないけど、最後は侍従川に戻って地元で骨を埋めるつもりでいるから！笑 その時は相棒として頼むよカネゴン！！笑」

金子「ははは うん！笑」

こうして、最後は一方向的にアツイ話をして、私は金沢文庫で先に電車を降りたのでした。次なるゴールデン世代の活躍を願いながら・・・笑

私は侍従会を通して、地域の活動が元気であり続けるためには、若者や子どもたちの存在が非常に大切だということを学んだと思っています。子どもたちは年齢を重ねる程、世界が広がりやりたいことが増え、地域に残るか分からなくなっていくけれども、たくさんの可能性を秘めた若い世代に、大人は期待し、元気が出るのだと思います。

私は、生まれてから 29 年間侍従川流域で暮らしてきましたが、大人の方々にはまだまだ若者だと思われている反面、自分より年下の世代も増えてきて、若者の中でも少し立場が変化してきたことを感じています。そして、20 代前半の頃はあやふやだった地域への愛着や想いは、捨てられない程強いものになりました。とはいえ、まだまだ後輩たちには負けないくらい油がのっているし、地元の外でも挑戦したいことは山ほどあります。もしかしたら、これから地元を離れることもあるかもしれませんが、先にも書いたように、必ず地元に戻ってきて、侍従川での活動を続けたいと思っています。

北の国から ～紅葉と野鳥の渡り～ 瀧本宏昭

前回の会報から、こちらは秋が過ぎ、気温は0℃よりも低くなるのが当たり前になってきました。降雪や-10℃になる日も時折あり、いよいよ北国の越冬のために準備をしています。タイヤ、ワイパーを換え、フロントガラスの凍結防止シートと雪かきを買うなど、極寒の地を生き抜くため、気を引き締めています。さて、私個人のことはこのくらいにして、自然に目を向けると、北海道ならではの季節が流れています。

9月中旬、紅葉が大雪山の山頂付近ではじまり、10月中旬にはウトナイ湖周辺がピークを迎えます。北海道では、この木々の色の移り変わりと共に、野鳥たちの渡りの時季が到来します。その中で、私が働いているウトナイ湖はカモの仲間が見頃を迎えます。彼らはこの季節、冬を越すための準備として「移動」という手段を取り、冬は氷に閉ざされるロシアの北極圏から、食べ物と凍らない氷辺がある日本の本州へ南下します。その「渡り」の途中、多くが北

海道に立ち寄るのです。その中で今回話題として触れるのは、読者の皆さんも1度は耳にしたことがあるであろう「ガン（雁）」です。例えば、編隊飛行の「雁行」、食べ物の「がんもどき」、悪口?の「雁首そろえて…」などなど。そんな彼らの北海道に入るルートは主に2つで、1つは千島・根室からの入る道東経由コース、もう1つは樺太方面からの道北経由コースがあるようです。そこから、ウトナイ湖付近（札幌から南の太平洋側沿岸）を通り（通らないのもいる）、本州へ抜け、主に宮城県へ行きます。この長旅の際に、ウトナイ湖は重要な中継地となります。参考までに数で示すと、全国の一斉調査でガンの観察総数は約20万羽（環境省（2015）第46回ガンカモ類の生息調査報告書）とされていますが、2016年3月18日の早朝のウトナイ湖では約10万羽がカウントされています。前後の日に群れがずれることを考えると、ガンにとってウトナイ湖が1大人気スポットであることが分かると思います。いわゆる秋の渡りは、1日に万を超える規模はみられませんが、それでも見応えたっぷりです。ちなみに、主にウトナイで見られる種類は、「マガン」「ヒシクイ」です。レアなものとして「ハクガン」「シジュウカラガン」がいます。ガンが一斉に飛び立つその風景は、一見の価値ありです。

小雪が降る中、今日（12月2日）も200羽のマガンの群れを見送ったウトナイ湖より。



ウトナイ湖の紅葉 10/19



朝日とマガンの飛び立ち 10/21



雪に包まれたウトナイ湖 11/6

侍従川定例調査報告 学生部

2016年9月25日(日) 9:00~11:00

【調査範囲】 泥牛橋(下流域)~大道一丁目緑地(中流域) ※下流域は汽水域(海水と淡水が混ざるところ)

【確認した生物】 [貝類] 下流域: イシマキガイ、中流域: カワニナ

[昆虫類] 中下流域: ギンヤンマ成虫、中流域: アメンボ、コシボソヤンマ成虫、アキアカネ成虫、コノシメトンゴ成虫、ハグロトンボ成虫、コヤマトンボ幼虫、コシボソヤンマ幼虫、シオカラトンボ成虫

[甲殻類] 下流域: チチュウカイミドリガニ、中下流域: テナガエビ、クロベンケイガニ、中流域: ミゾレヌマエビ

[魚類] 下流域: ヒナハゼ、ウロハゼ、中下流域: マハゼ、ビリンゴ、チチブ、中流域: ボラ、ゴクラクハゼ、シマヨシノボリ、ウキゴリ、スミウキゴリ

[爬虫類] クサガメ

[鳥類] コサギ、アオサギ

【調査範囲】 大道橋~セブンイレブン前(中流域)

【確認した生物】 チチブ、ウキゴリ、スミウキゴリ、シマヨシノボリ、ホトケドジョウ、モクスガニ、ミナミテナガエビ、アサヒナカワトンボ幼虫、ミルヤンマ幼虫、コシボソヤンマ幼虫、コヤマトンボ幼虫、イトトンボ sp.、ガガンボ sp.、カワニナ、モノアラガイ(※「sp.」とはspecies(種)の略で、属名は分かるが、種名が同定できないものことです。)

【備考】 チチブ、シマヨシノボリが大道橋~侍従橋間まで多く上がってきているのが印象的でした。

ウキゴリ・スミウキゴリは大道橋からセブンイレブン前まで満遍なく確認されました。

中流域でホトケドジョウが確認されました。ホトケドジョウは20年以上前は上流域に生息していましたが、河川改修により一度絶滅しています。そのため、人為的に放流された個体か、近隣の朝比奈小学校から流れてきた可能性が考えられました。そこで、侍従川流域の下水道を調べたところ、朝比奈小学校からの下水は、朝比奈橋に流れていることが分かりました。そのため、今回確認されたホトケドジョウは、朝比奈小学校から流れてきた個体であると考えられます。



高橋一太ミニ水族館解説デビュー

ちなみに、東朝比奈2丁目と3丁目の下水は朝比奈橋に、東朝比奈1丁目の下水は、地蔵橋と大道橋-侍従橋間に流れているそうです。

2016年10月23日(日) 9:15~11:00 晴れのち曇り

【調査範囲】 かすみ橋(下流)~大道一丁目緑地(中流)

【確認した生物】

[昆虫類] ゲンジボタル(幼虫)、ハグロトンボ(幼虫)、ダビドサナエ(幼虫)、コヤマトンボ(幼虫)、ミレンヤンマ(幼虫)、コシボソヤンマ(幼虫)、シオカラトンボ(幼虫)、ショウジョウトンボ(幼虫)、アメンボ、シマアメンボ

[甲殻類] ミゾレヌマエビ、テナガエビ、ミナミテナガエビ、クロベンケイガニ、モクスガニ

[貝類] カワニナ

[魚類] メダカ、ボラ、ヒナハゼ、ゴクラクハゼ、シマヨシノボリ、マハゼ、ウロハゼ、ビリンゴ、ウキゴリ、スミウキゴリ、チチブ

[爬虫類] ヒバカリ

[鳥類] カルガモ、アオサギ

事務局だより

事務局 金澤由香

◆1月~3月の活動予定◆

☆定例クリーンアップ1/22(日)、2/26(日)、3/26(日)

9時~12時 ちとせ園集合 ※雨天延期・翌週日曜

持ち物:川に入れる格好、タオル、軍手(必要な人)、網(使いたい人…貸出あり)、着替え(心配な人) ※川の上からの参加でも構いません

☆1/7(土) ネイチャークラフト教室 9時大道小集合

午前…つる採り 午後…六浦地区センター(3F多目的室大)にてかご作り 参加無料

☆3/26(日) 第31回横浜の水辺と緑を考える子ども会議(舞岡公園虹の家)

実行委員会1/14(土)、2/18(土)、予備日3/4(土)

※詳細はホームページ及びメーリングリストで

■学生部の活動は追ってお知らせします。

《編集後記》 今年もアツという間の一年でした。侍従会の活動に参加していただいた皆さん、原稿を書いていただいた皆さんに感謝します。また来年もよろしくお祈いします。(MK)

ふるさと侍従川に親しむ会

事務局:金澤 由香

TEL:090-4072-8485

e-mail:jijyukai@gmail.com